

平成29年度第2回山形県図書館協議会議事概要

- 1 日時 平成30年2月28日（水）13:00～14:30
- 2 場所 「遊学館」2階 チェリア学習室
- 3 協議（委員の発言、質疑等の概要）

（1）平成29年度 県立図書館の利用拡大のための取組みについて

[松田委員長]

説明を受けたが、様々な取組みに対し工夫を凝らしてやっていると思う。ただし、作成資料が平板に見えるので、初めての企画に（※）印をつけたり、この取組みには手ごたえがあったと記載するなど、見る人を引き付けるように手を加えるようにしてはいかがか。

（2）県立図書館 平成30年度運営方針（案）について

[鈴木委員]

新聞報道（2月18日）によると、県立図書館の図書資料整備費は年々減少しており、東北で最も低く、全国的にも最低クラスの規模となっているようだ。県立図書館の資料整備が危機的な状況にもかかわらず、運営方針（2）①「資料整備の推進」をうたっており、主張が矛盾しているのではないか。

（事務局） これまでも図書資料整備費予算の増額を要求してきたが、これからも、その必要性を訴え続けてまいりたい。なお、本館にとってリニューアルを迎えてゴールではない。その後も本館は進化を続けていかなければならない。そのためにも図書資料の充実は不可欠であり、課題解決に向けて一層の働きかけを行ってまいりたい。

（文生課） 図書資料の充実の重要性は十分認識しており、予算が厳しい中ではあるが、どうすれば質量ともに充実を図り県民に満足していただけるかを検討し、出来る限りの予算確保に努めてまいりたい。

[松田委員長]

予算獲得のためのアイデアとして提言したい。文部科学省では平成30年度の組織改正に伴い「社会教育」の名称が消えて「地域教育推進」に変わるが、地方創生の考え方が重視されていることが背景にある。

従って、運営方針（3）①「地域の課題解決や地域活性化への支援」では、地方創生の考え方を推し進めて、地域住民が図書館の資料を用いて地域課題を学び調べ直すことを県立図書館がモデル事業として取り組んではいかがか。学び直しに図書資料整備の充実強化は欠かせないはずである。

[佐藤（晶）委員]

以前、県立図書館の地下の閉架書庫を案内してもらった時、多くの資料が保管されてい

ることに驚いたことがある。中には貴重な資料も保管されていたが、こうした貴重な資料は開架に回して図書資料として活用したらいい。また、このような資料整備に係る費用は人件費などと照らし合わせて管理していかなければならないと考えるが、リニューアルに向けての管理運営の在り方についてはどのように考えているか。

(文生課) 管理運営の形態については、施設がリニューアルされるとともに、利用者に満足してもらうためどのような運営形態がいいのか、全国の事例も調べながら検討してまいりたい。

[佐藤(奈)委員]

運営方針の中で、大規模改修に伴って県民ニーズに適合した施設づくりを掲げているが、運営方針(2)①「資料整備の推進」の県民の知的ニーズや情報ニーズの把握とはどういうものなのか。今の時点でも県民のニーズを把握して、県民がこういうものを欲しがっているということを踏まえて資料収集をしているのか。県民の必要としているニーズの把握をどのようにしているのかを教えてほしい。

(事務局) 県民のニーズの把握ということでは、県民が本館に直接、アクセス、アプローチして問われる機会として調査相談がある。調査相談の件数はここ何年か増えており、年間8,000件の相談が寄せられている。

内容としては、知的な欲求として県民が知りたいことへの問いもあれば、本館が所蔵しているかどうかといった資料に関する問い合わせもある。全体の4分の1は郷土に関する事項だが、それ以外にも多岐にわたっている。

それらのデータについては、データストックをしながら、本館が資料を購入する際に活用している。

一方、本館の企画展示では、社会的な課題、また、児童展示などに関しては子どもに今求められるもの、必要とされることなど、本館から県民に対して課題提示をして、逆に県民のニーズを引き出す、喚起していくということも併せて取り組んでいると認識している。

[渡邊委員]

3点要望したい。

- ① 学校では時勢を捉えてICTを活用した学びなどを研究しているが、各校の図書館運営予算に限りがある中で、活動が充実しているとは言えない状況にあり、県立図書館の団体貸出についてもっとPRしてほしい。
- ② 小中学校の司書教諭は図書館に掛かりきりとはいかず授業も受け持っているため、学校図書館の運営は厳しい状況下にある。義務教育での司書配置を希望する。こうした中で、新庄市の学校ライブラリーサーチの取組みは実に羨ましいと感じている。県立図書館と市町村図書館の連携強化も重要だが、市町村と学校図書館の繋がりづくりを推進してほしい。
- ③ 学校現場としては読育活動が大きく展開していくことを切に望んでいる。2019年に学校図書館の東北大会があるので、行政には支援・協力をお願いしたい。

[新藤委員]

- ① マルチメディア DAISY は全国的に見ても優れた取組みであり、強力にPRすべきである。図書館はもっとアウトリーチ活動を取り込んで、待ちの姿勢ではなく（情報を）相手に届けることを重視すべきである。SNSの活用など今後どのように進めていくのか、計画的な広報戦略があるのか。発信の手段の検討も重要だ。メディアへの協力依頼だけでなく、時には「公民館だより」などを利用することが効果的な場合もある。
- ② かつて県で手作り絵本コンテストをやっていたが、予算の影響なのか、なくなってしまった。優れた活動・取組みは継続してほしい。図書購入費もそうだが、予算を減らさないように頑張してほしい。県立図書館は「地域の情報センター」であり、その中核となるのは資料である。地域課題解決を掲げるのであれば、紙の本は確保していくべきである。

[加藤委員]

- ① 障害者向けのサービス案内（ディジー、LL本、リーディングトラッカー）をぜひ県立図書館のホームページに載せてほしい。特にリーディングトラッカーは画期的な器具であり、初めて使う方は新鮮な驚きを覚えると思う。利用者の関心を高めるために体験コーナーを企画してはいかがか。
- ② 同様に、子ども向けの本の情報コーナーを設けてほしい。月ごと、或いは季節ごとにテーマを工夫して、県立図書館のホームページに載せてほしい。関係機関にとってはブックトークの情報源としても活用できる。
- ③ 読書活動を推進するうえで読み聞かせグループの存在意義は大きいだが、県内のボランティア団体の実態調査を県でやってほしい。読み聞かせ活動の先進地である長野県では団体数が470、関係者が6,000人となっている。
- ④ 図書館職員の研修で、市町村の職員が読み聞かせボランティアの指導者になるための研修会を県でやってほしい。読み聞かせの講座を市町村が担うと予算上の理由からなのか縮小する傾向にある。公共図書館職員に指導者になってもらうための講座を行えば予算をかけずに出来るのではないか。

(3) その他について

〔 文生課からの「大規模改修の概要」の報告と、事務局からの「工事期間中の利用者サービスの概要」の説明を受けての質疑応答 〕

[加藤委員]

36万冊と冊数が倍増するが何人体制で運営することになるのか。

(文生課) 管理運営に関しては検討段階であり、現時点ではお答えできない。

[佐藤（晶）委員]

改修工事によって縣人文庫はどうなるのか。

また、若い人たちにも広く知られている著名な方々を取り上げれば次の世代も関心を寄

せるので、人選をやり直してもいいのではないか。

(文生課) 現在は、図書館への来館者は、縣人文庫に関心のある方以外は縣人文庫に立ち寄って見ていただきやすい配置とはいええない状況と思われる。このため、改修工事では、縣人文庫の 22 名の展示資料を開架エリアに分散配置する計画としている。周囲の図書資料と一体になった展示コーナーとし、偉大な先達の偉業を広く来館者に知っていただけるようにしていきたい。
なお、後段については、研究課題と受け止めたい。

[新藤委員]

2階のサイレントエリアの学習席数は高校生等が(勉強用に)使っているので、学習席数を減らさないでほしい。

(文生課) 数を減らさないで設計を組んでいる。

[加藤委員]

子どもエリアではゾーン設定がバラエティに富んでいるが、赤ちゃん絵本のコーナーはあるのか。

(文生課) 子どもエリアには新たにお話の部屋として、靴を脱いで親子で読み聞かせできるスペースを設置する予定である。

(事務局) 運用面で整理して多目的に活用できるようにしたい。